

## <生物・生態系>

### 1 調査結果

#### 1.1 調査期日

生態系（陸域）調査は、表 1.1-1 に示すとおり、平成 29 年 5 月 1 日（月）～5 月 2 日（火）に実施した。

表 1.1-1 調査概要

調査日	調査時間	調査時天候
5 月 1 日（月）	9:00～17:00	晴れ一時雨
5 月 2 日（火）	9:00～14:00	晴れ

#### 1.2 調査結果

##### 1.2.1 陸上植物の状況

###### (1) 注目される植物種

調査範囲内で確認された植物のうち、表 1.2-1 に示す法や条例等の広く認知された基準に該当する種を注目される種として、表 1.2-2 に示す 1 科 2 種を選定した。

表 1.2-1 注目される種の選定基準


選定基準①	「文化財保護法」（法律第 214 号 昭和 25 年）A：特別天然記念物 B：天然記念物 「東京都文化財保護条例」（昭和 51 年東京都条例第 25 号） C：天然記念物
選定基準②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存法に関する法律」（平成 4 年法律 75 号）による「国内希少野生動植物種」
選定基準③	「環境省 レッドリスト 2017」（2017 年 3 月 31 日、環境省報道発表資料。以下、環境省 RL） EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
選定基準④	「レッドデータブック東京 2013～東京の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」（東京都環境局自然環境部，2013。以下、東京都 RDB）における「区部」該当種 EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 留：留意種

表 1.2-2 注目される植物種

No.	科名	種名	学名	選定基準			
				①	②	③	④
1	ラン	ササバギンラン	<i>Cephalanthera longibracteata</i>				VU
2		クゲヌマラン	<i>Cephalanthera shizuoi</i>			VU	
合計	1 科	2 種		0 種	0 種	1 種	1 種

注 1) 種名及び分類等は「環境庁植物目録 1987」に準拠した。

【確認状況・一般生態】

種名	ササバギンラン (ラン科 <i>Cephalanthera longibracteata</i> )	
選定基準	環境省：VU (絶滅危惧Ⅱ類)	
確認数	春季	1地点 1個体
確認状況	テニスコートを囲む常緑植栽樹群の林床に生育していた。	
形態・生態	<p>多年草で、茎は直立し高さは 30～50 cm、裏面は緑で花序などに微突起がある。苞葉は線形で下部の 1～2 枚は花序より長くなる特徴がある。花期は 5～6 月。花は白色で平開しない。唇弁基部に距がある。山野の林床に生育する。</p> <p>東京都では、各地の台地から丘陵地、山地の落葉または常緑樹林内に生育するが少ない。</p> <p>植生遷移の進行や雑木林をはじめとした山林の改変、園芸目的の採取などが本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられるが、まだ広範囲に見ることができる。生育環境が落葉または常緑広葉樹林ないであり、樹林管理の再開などにより復活する機会が多い。下草刈りなどの林床管理を行うことや、園芸採取圧からの保護が課題である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ササバギンラン (平成 29 年 5 月 1 日撮影)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ササバギンラン(距がある) (平成 29 年 5 月 1 日撮影)</p> </div> </div> <p>出典：「東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 2013 年版」(東京都) 「日本のランハンドブック①低地・低山編」(文一総合出版)</p>	

【確認状況・一般生態】

種名	クゲヌマラン (ラン科 <i>Cephalanthera shizuoi</i> )	
選定基準	環境省：VU (絶滅危惧Ⅱ類)	
確認数	春季	10地点 129個体
確認状況	テニスコート周辺の、クスノキやマテバシイが優占する常緑植栽樹群の林床に生育していた。開花個体が多く確認され、100個体以上群生している地点もみられた。	
形態・生態	<p>亜寒帯～暖温帯の主に落葉広葉樹林やクロマツ林床に生育する地生ラン。茎葉直立し、高さ 10–30cm。葉は互生し、狭長楕円形。花は白色であるが、唇弁の基部の距が浅くて、突出することがない。分布は太平洋側に限られている。</p> <p>近年、造成地や都市公園などで急速に分布を広げている。ギンランに似るが、距が明らかに短いことや茎の稜が目立たないこと、開花時の植物体のざらつき (乳頭状突起) や葉のしわが少なく、葉脈が目立たないことで区別できる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>クゲヌマラン (平成 29 年 5 月 1 日撮影)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>クゲヌマラン (距が短い) (平成 29 年 5 月 1 日撮影)</p> </div> </div> <p>出典：「日本の絶滅のおそれのある野生生物 植物Ⅰ」(環境省) 「日本のランハンドブック①低地・低山編」(文一総合出版)</p>	